

## 会 議 録

1 会議名

平成29年度第2回阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会

2 開催日時

平成30年3月23日（金） 午後1時30分から午後2時45分まで

3 開催場所

阿賀野市役所 別館「303会議室」

4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：小野委員、荒木委員、大塚委員、小野里委員、佐藤委員、菅野委員、  
酒井委員

（12人中7人出席）

・圓山総務部長

・事務局：市民協働推進課（遠藤課長、塚野係長、芋川主幹）  
市長政策課（苅部課長、小林主事）

5 議題（公開・非公開の別）

（1）男女共同参画に関する意識調査について

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

0人

8 発言の内容

開会（遠藤課長）

あいさつ（小野会長）

あいさつ（圓山総務部長）

議題

【設置要綱第6条の規定により会長が議長を務める。】

（1）男女共同参画に関する意識調査について（公開）

会長：それでは皆様よろしくお願ひします。では議題に沿って進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。まず、意識調査実施スケジュール資料1について説明お願ひしたいと思ひます。

(事務局より資料に基づき男女共同参画に関する意識調査について説明)

会長：ありがとうございました。この調査の目的を先ほど説明していただきましたけれども、達成状況の検証と前回の調査結果との比較ということで、基本的には質問項目を変えないで実施するという事です。また、今ほど資料にあります変更箇所が1箇所入ってきたところであります。その他に皆さんから、内容を確認したい点、変更が必要と思ふ点などのご意見をいただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

遠藤課長：再度、各調査票の設問を確認しながら進めさせていただきたいと思ひます。では資料4 市民意識調査から確認させていただきます。

A委員：資料4の男女共同参画市民意識調査ということで、表紙の文面にある男女共同参画という言葉自体は聞いたことはあるんですけど、私自身もそうですが、十分理解しているとはいへません。市民の皆さんも同様ではないでしょうか。資料4の表紙に「阿賀野市では、男女がともに参画し、夢と幸せをはぐくむまちづくり」という文言が入っていますが、この調査の本当の目的は、こういうまちづくりを、こうした社会にするために資する調査なんですよということが目的ですよね。ですので目的を明確にする意味で、「男女がともに参画し」は、何に参画するのかわからないですから、私が考えたのは「男女がともに地域・家庭に参画し、男女が平等に夢と幸せをはぐくむまちづくり」で、調査の目的をもっとわかりやすく明確にし、そこを太字にする方がよしいんじゃないかなと私は思ったんですね。市役所から調査がきたなというときに、何のためにやるのかというのが、受け取る側が曖昧になってしまわないように感じました。

会長：この「男女がともに参画し、夢と幸せをはぐくむまちづくり」は、阿賀野市の男女共同参画に対するテーマでもある訳ですね。ですから、今回の計画の中に取り込まれている文言だと思ふんですが、どうですか。

遠藤課長：今、会長からも話がありましたが「男女がともに参画し、夢と幸せをはぐくむまちづくり」の実現というのが、大事な男女共同参画プランのテーマであり目標になっています。それを具現化するために参画プランを策定しておりますので、その趣旨をよく理解してもらうことが必要だと思いますので、そのような配慮はさせていただきたいと思います。

会長：では、今A委員からご指摘いただいた部分については、補足で説明するようなかたちで文言を加えてあげれば、テーマの内容も具体的に皆さんにわかりやくすなると思います。

A委員：出来れば目立つようにそこを太い字にして欲しい。「男女がともに地域・家庭に参画し、男女が平等に夢と幸せをはぐくむまちづくり」というように例えばカッコして後ろにつけるとか。手法はお任せしますが、目が向くように、太い字にした方がいいと思います。

会長：具体的かつ目立つように太字に変えるとか、工夫が必要ということですね。ありがとうございました。他にありませんでしょうか。

(事務局より資料4 市民意識調査票(案) 問1～問12まで読み上げ)

A委員：事前に資料をいただいたので見ていたんですが、問10の⑥番で「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という質問がありますが、ここでの質問というのは、家事と子どもとの関係を聞いている、子どもがいるという前提で聞いているんですよね。そこで、子どもがいなくてもいいというのは、別な観点じゃないでしょうか。10番の設問の中で馴染まないんじゃないでしょうか。

B委員：⑥番は、実際に子どもが欲しくてもできない人がこれを見たらどう感じるでしょうか、私も実際見て思いました。ちょっとあまりにも子どもがいるって前提で文章が作られているような気がします。

A委員：⑥番は余計それを刺激するような気がします。

B委員：最近子どもが欲しくてもできない人が大勢いらっしゃいます。だからその人がこれを見た時、すごく嫌な感じになると思います。

会長：比較しなくてもいい項目であれば別に削除してもいい訳ですね。

遠藤課長：3回目の調査となり、調査項目を踏襲しています。

B委員：ちょっと戻りますが、問4に「4自由業」と書いてありますが、実際自由業というのは、フリーライターを指しているのでしょうか。どういう意味なのでしょうか。

芋川主幹：県の調査でも同じような質問をしているのですが、県の方ではこの自由業は、例えば開業医ですとか弁護士ですとか芸術家などの自営者とか家族従業員という位置づけになっています。

会長：自由業とはこういう職業ですと、注意書きを入れるとわかりやすくなりますね。

C委員：設問は平成25年度から基本的に同じとおっしゃってましたけども、前回調査の設問はどのようにして作成されたのでしょうか。全国的に男女共同参画が叫ばれてる訳ですけれども、他の自治体の調査を基に作られたりといったものなのでしょうか。

遠藤課長：設問については、県で実施している意識調査を参考にしたものと、合併した当時、第1次共同参画プランを作るにあたり、大学のアドバイザーの先生から策定の指導をいただき策定いたしました。市の職員でワーキングチームを作り計画を策定したところでございます。  
先ほどA委員からいただきました問10の⑥番目ですが、皆さんからご意見いただければと思います。

遠藤課長：B委員がおっしゃるとおり、お子さんが欲しくてもお持ちになれない方がいる場合に、この設問を問いかけていいのかという気はします。

A委員：これは基本的に子育ての設問ですからね。子どもを持つ必要がないというのは、また別次元の話ですね。

会長：この項目を作成した時期と、今何年か経ってる訳ですから。表現についての考え方が世間一般的に考えると、ちょっとズレが出てきているということですよ。作成したときは多分こういう考えの方も聞いた方がいいとい

うことであったと思いますね。年数が経つに従って、いろんな面で人権や一人ひとりの考えを尊重しようという時代になってきた訳ですから。断定してしまうと非常に語弊が出てくるように感じるということですね。それで多分こういうご意見が出たと思います。

遠藤課長：私どもも参考ご意見としてお聞きさせていただきます。同じように県内の市町村も計画づくりを進めておりますので、その辺の状況を参考に集めてみたいと思います。

D委員：設問全体についてお尋ねしますが、ガイドライン的なものはあるんですか。

遠藤課長：特にないと思います。県の調査では幅広く細かいところまで聞いています。

D委員：取捨選択しているのですか。

遠藤課長：県の調査項目を参考としています。県は当然公表しておりますが、かなり細かいところまで聞いています。

会長：その辺、他市町村とのバランス、また現代の動向なども変わってきている中で表現なので、それも検討していただくということでもよろしいでしょうか。

(事務局より資料4 市民意識調査票(案) 問13～問19まで読み上げ)

A委員：19番の2とか3の育児と介護休業制度の充実ですが、私の友達や自分の息子からもよく聞きますが、会社で制度は整っているのですが、いざ取得しようとしたときの周囲の理解や協力、つまり会社の上司や同僚などの理解や協力がないと制度がなかなか取得できない。現実に働きやすい環境づくりを考えた場合、制度はあるんだけど実際には制度が動かない、取りにくい、そういうことがあると思うんです。それは9番の、男性が家事や育児をすることに対する家族や周囲の理解と協力、とはまた別に、会社でのことなので、2番と3番のところにてできれば「取得時の周囲の理解と協力も含む」という感じにすると、この言葉や設問に魂が入ると思います。制度の充実には、制度はあるのと思うのでこの選択肢には○を付けられないんですね。ここに取得時の上司と同僚の理解と協力というようなことも入れればピンとくると思います。

会長：選択項目の表現が少しわかりにくい。もう少し具体的にカッコ書きなどして、今お話のように注釈を入れることではどうですか。

A委員：入れた方が充実も然ることながら、取得時の上司・同僚の理解と協力も含むような内容にしてもらおうと、ここに○を付けようとなる人も多いと思います。

会長：この選択項目は、A委員のお話になったような意味を含んで入れてあると思います。

A委員：もちろん制度がないところもあると思いますが、制度があって取得したくても周囲の理解がなくて困っている人は、ここに○を付けにくいですね。

会長：こういうところに、アンケートの結果関心がすごく強くて、今自分が置かれている職場環境などでまだ理解されていない、取得できないのであれば、そういう人は制度を充実してもらいたいということで、チェックする方もいると思いますね。ですから、とらえ方が多様化して少しわかりにくいのであれば、今ご指摘のあったようなことも注釈で入れてあげれば、より親切ではないでしょうか。

A委員：5年10年前はこの制度さえ充実してなかったという会社も多かったと思うんですね。最近は充実してきていますが、取りにくいという雰囲気があって、結局、死文化してるというのが、私の息子からもそういう話を聞いているものですから。取得時の周囲（上司・同僚）の理解と協力というように、全く別項目にしてもいいかもしれません。

遠藤課長：9番には周囲の理解と協力という言葉も出ていることから、別項目として、育児休業介護休業における上司や同僚など周囲の理解というようにしてはどうでしょうか。

A委員：9番に入れ込んでもいいですね。周囲と書いて上司とか同僚だと入れてもいいかもしれませんね。

会長：ただ、9番は家族の理解と協力も入っている訳ですから、2、3というのはあくまでも本人が働いている職場環境のことを聞いているんですね。

A委員：確かに。ただ大幅に改正しないで、会長の言うようにここは2、3の制度を持っていない人のための欄だと思うので、そこはいじらないで。取りにくいような話であれば、9番あたりに入れるという形でもいいと思います。

会長：それも含めて検討していただくということでよろしいでしょうか。

遠藤課長：検討させていただきたいと思います。

会長：聞こうとしていることはよくわかる訳ですが、受け取る側で誤解があったりズレがあったりすると、正確な調査にならないのでよろしくお願いします。ありがとうございました。では続けてお願いします。

(事務局より資料4 市民意識調査票 (案) 問20～問27まで読み上げ)

会長：ありがとうございました。問20についても先ほど話題になったところについては検討していただきたいと思います。男女の人権については、まだたくさん差別等のことが出てきますが、これは平成32年で改定があると思いますので、その時にまた男女の人権や色々な項目として入ってくると思いますので、今回はこの項目だけについてということでもいいかと思います。他に皆さんいかがでしょうか。

会長：それでは次の児童生徒意識調査についてお願いします。

(事務局より資料5 児童・生徒意識調査票 (案) 問1～問10まで読み上げ)

A委員：問9の2番目に会社員という言葉があるんですけども、この会社員という言葉はいかななものでしょうか。会社員に該当する職業が別に多く記載されていますよね。施設で働く人だって会社員かもしれないし。そういう意味では、会社員はそぐわないと思うのですが。

D委員：実は私もこの2番会社員は疑問だったのですが、会社員は非常に幅広いです。

A委員：いらないですよ。他の選択項目でけっこう細かく書いてありますから。

D委員：平社員も会社員だし、重役も会社員だし。重役は、一旦社員については離れることが多いですけども、法律上は会社員です。一旦退職して取締役になりますが。

A委員：給料をもらう人が会社員ですから。

D委員：あまりにも幅が広くて特定できない、絞り込めないような気がするんです。会社員目指す人は、社長目指す人もいるかもしれないんです。それは会社員からスタートするんだけど。そのあたりいかなものかなと思ったんですが。

会長：一つ選んでとなっておりますから。

A委員：あと28番農業をする人には、農業だけしか入ってませんね。農業、林業、漁業まで入れないとまずいんじゃないですか。30番の学者、博士とあるんですけども、学者はいいですが、博士は職業じゃないです。研究者ならわかるんですけど。博士は学校の学位であって職業ではないですよ。研究者の方がいいかなと思います。

D委員：28番はもう少し加工すれば何とかなるのかなと思いますね。

A委員：市民調査の間4に農林水産業とありました。

遠藤課長：28番は農業、漁業、林業をする人、30番は学者・研究者という形にしたいと思います。2番会社員はいかがでしょうか。

A委員：馴染まないと思います。子どもたちにこういう言葉が馴染みやすい言葉だと思わせたら、逆に教育上好ましくないと思います。

B委員：実際まだ小学生、中学生だから、漠然と会社員って答える人がいると思います。

C委員：まだ具体的に考えや気持が決まっていなければ、会社員でもいいのではないのでしょうか。小学生レベルだとそういう人もいるんじゃないかなと思います。



遠藤課長：これも事務局扱いで調べてみたいと思いますので、よろしいでしょうか。

会長：農業についても、地域性もありますので。例えば、海で働く人が家族や身近な方にいたりするような環境であれば、ここに水産業がないなという話になりますけども、阿賀野市の子どもたちがそこまで深く考えてチェックするかわからない部分もあるので、カッコ書きでもかまいませんけど。主に農業とか。その方が、子どもにとっては考えやすいかと思いますね。

会長：こういうご意見も考慮して検討するということでよろしいでしょうか。あと他にありませんでしょうか。

A委員：10番目ですけど、選択を1つに絞らなくても。1つはきついなと思うんです。2つ、3つ選ばせた方がいいと思いますが。

会長：中学3年生くらいになると就職のことや進学のことを考えたり、自分の将来について見つめていく年齢になってくる訳ですけども、漠然と思ってる子どもも多いんじゃないかと思いますが、この辺も個人差でありますので、1つ選ぶとしたらという聞き方なんですよね。いっぱいあると思うけれども、その中でも1つ選ぶとしたら今考えているのはどんなことですか、という聞き方なんです。段々年齢を増すごとによっていろんな知識や考え方が生まれてきて、これもやってみたい、あれもやってみたいと、1つも2つも出てくるような年齢層でもあると思います。

A委員：私は必ずしもそうとは限らないと思います。2つ3つあってもいいと思います。

会長：これを例えば3つ以内で選びましようとなると、比較する段階ではどうですか。問題ありませんか。前回取ったアンケート結果と、今数年経っての比較を見るのであれば、時代の流れによって子どもたちの意識や考え方も目指すことも変わってきてるんだなという見方はできますよね。だから、増やすことで比較できるかどうかの問題になりますね。

A委員：増やすことによって、バラけてきたなということもできますよね。調査が主じゃないんですよ。人間を見つめることが主ですから。調査があつて、調査の枠からはみ出ることを我々はやらないということじゃない。人間は時代とともに変わりますしね。調査の方がガチッと枠付けになってるかもしれない

いですけども。

会長：意識調査なので、その辺との整合性ですね。

E委員：僕は正直1つでいいんじゃないかなと思います。2回3回やってデータがあって、アンケートとして数値がぼやけてしまって子どもたちの意見がぼやけたりするくらいだったら、今考えているの1つだけ選んでもらった方がとてもシンプルだし。意識調査だと思ってるので、この中で複数回答するより、ひとつ本当に今思っていることでいいような気がするんです。自分の子ども今ちょうど5年生ですけど、ここで3つ選んだからどうこうだということにはならない気がする。今本当に考えてることはどれなのって言われた方が、子どもとしても良いのかなとは思いますが。

A委員：この意識調査というのは、5年10年20年経って日本の子どもたちがどういう風な考え方をしていくのかっていうことをうかがう調査なんですか。

遠藤課長：5年に1回のアンケート調査ですが、その時の小学生と中学生の素直な考えを把握する調査です。

会長：調査を受ける児童生徒の意識が、将来のことについて、今E委員が言われたように漠然としている子どももいれば、A委員が心配されている、いろんな視野で物事を考えようとしてる子どももいる訳で、比較をすることも含めて子どもの意識の中で混乱させることはあまりよくないんじゃないかと思います。決め難いとなると、自分の気持ちひとつでいいはずなのに、あれもこれもとなると、尚更決まらない子どもがチェックできない。1つだから付けられるという考え方もある訳です。いっぱいやりたい子どもも中にはいると思いますが、その中で3つも4つも自分はやりたいと思っているけど、その中で特に1つ選ぶとしたらという聞き方で聞いていけば、子どもたちはそれで納得する感じもします。

D委員：比較の連続性ということであれば、このままでいいと思います。

F委員：私も4年生の子どもがいるんですけど、全部見るとすごくみんないいことが書いてあるんですね。どれかという、みんなそういう人間になりたいと思うので、その中で何か1を選ぶ方が、子どもたちにとってはわかりやすいんじゃないかなと思います。

会長：5年生なら5年生、中1なら中1として考えていることを1つ選ぶとしたらという聞き方なんですよね。ですから1つでいいのかな。その中で、調査したら様々な子がいるんだなということがわかればいい訳です。多分そういう趣旨だと思うんですが。

会長：はい、ありがとうございます。では、次をお願いします。

(事務局より資料6職員意識調査票(案)問1～問11まで読み上げ)

D委員：問2の年齢の区切りです。④50歳以上となっていますけれども、今、市役所にいる再任用職員も調査対象に含むのでしょうか。

遠藤課長：職員意識調査については、再任用職員は対象にはしないことしております。市の職員、消防職員を含め正職員を調査対象としています。

会長：全体をとおして意識調査のことについて何かありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

会長：それでは、次、その他ということで、事務局の方からお願いします。

遠藤課長：議題については長時間に渡りまして、詳細についてご審議いただきまして大変ありがとうございました。項目については再度調査し対応させていただきますのでよろしくお願ひしたいと思います。

それで、一点だけ事務局からお礼を述べさせていただきたいと思ひます。皆様方から現在就任いただいております、男女共同参画プラン推進協議会委員の任期でございますが、平成30年3月31日をもちまして任期満了になります。2年間の長い間大変お世話になりました。ありがとうございます。また、来期の委員につきましても、改めましてお願ひを申しあげさせていただくと思ひますので、その際はご配慮賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。

遠藤課長：会長様には、議事進行大変ご難儀をかけましてありがとうございました。  
皆様におかれましては、慎重なご審議誠にありがとうございました。以上  
で予定していた議案については終わらせていただきたいと思います。年度  
末の慌ただしい中で開催のご案内をさせていただきましたが、平成29年  
度第2回阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会を終了させていただきます。  
本日はご出席いただきまして大変ありがとうございました。

9 問い合わせ先

市長政策・市民協働課市民協働係 TEL：0250-62-2510

E-mail：[shiminkyodo@city.agano.niigata.jp](mailto:shiminkyodo@city.agano.niigata.jp)